



京大病院広報

●KYOTO UNIVERSITY HOSPITAL NEWS●

「きさらぎコンサート2012」を開催



コンサートの様子



井前 慶子さん(左)と井前 典子さん(右)

本文 9ページをご覧ください

CONTENTS

- ① Stroke Care Unit(SCU)開設 2
脳神経外科教授・診療科長 脳卒中診療部長／宮本 享
- ② 東日本大震災支援のための医師の派遣者一覧 3
- ③ 最先端医療シリーズ 3
「LOX-1シグナルと関節リウマチ」
リウマチ性疾患制御学講座(整形外科) 准教授／伊藤 宣
- ④ 検査システムの変更について 4
- ⑤ 医療安全管理室だより 第4回 採血室 5
医療安全管理室長／松村 由美
- ⑥ 院内講演会の紹介 5
「微生物学的検査の検体採取と保存について」
感染制御部 助教／松島 晶
- ⑦ 読者より 6
「関西電力病院の紹介」
関西電力病院 院長／清野 裕
- ⑧ トピックス 7
- ⑨ 名物職員紹介 9
- ⑩ 各科・部からのメッセージ 10
- ⑪ 栄誉 10

次代の医療を担う看護師になる。



〈看護師募集中〉

[URL]<http://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/~wwwkango/>

京大病院の基本理念

- (1) 患者中心の開かれた病院として、安全で質の高い医療を提供する。
- (2) 新しい医療の開発と実践を通して、社会に貢献する。
- (3) 専門家としての責任と使命を自覚し、人間性豊かな医療人を育成する。

発行 京都大学医学部附属病院広報部会
〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町54
[FAX] 075-751-6151 [URL]<http://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp>

ご意見、ご感想をお待ちしております。また、原稿の投稿も歓迎いたします。

wwwadmin@kuhp.kyoto-u.ac.jp

1. Stroke Care Unit(SCU) 開設



脳神経外科教授・診療科長

脳卒中診療部長／宮本 享 みやもと すむ

このたび京都大学医学部附属病院 南病棟3Fに脳卒中治療の集中治療室であるStroke Care Unit(SCU) 6床が開設されました。京大病院では救急部・神経内科・脳神経外科の密な協力により2011年9月に正式な組織として脳卒中診療部が発足し、12月からは実質的なSCUの運用開始、2012年2月からはSCU加算の開始、3月からは京都府の脳卒中急性期診療を担う医療機関として認定されました。SCUの開設にあたっては、三嶋 理晃病院長をはじめとする院内各部署の多大なご尽力の御蔭と心より感謝いたしております。

現代の脳卒中医療は多診療科・多職種として行うチーム医療と地域における医療連携がキーとなっており、発症後急性期から脳卒中を専門とするユニットにおいて治療管理することにより予後が改善することはよく知られております。2005年には急性期脳梗塞に対するtPAを用いた血栓溶解療法が保険収載され、2006年からは要件を満たした施設においてSCU入院医療管理料が算定できるようになりました。第5次医療法改正に基づき各都道府県は脳卒中急性期診療を担う医療機関を公表しております。京大病院がある京都市左京区や北区においては疫学的データや救急搬送のデータから年間約500件の脳卒中が発生していると推論されますが、これらの地域においては脳卒中急性期診療を担う医療機関として京都府から認定された病院はこれまで皆無で脳卒中救急医療は崩壊に瀕していたと言っても過言ではありません。このたび京大病院において稼働を始めたSCUはわずか6床で、すでに100%近い稼働率ではありますが、いかにフル稼働しても年間約100～200名しか収容できません。しかしながら、京大病院がこれまであまり積極的とは言えなかった急性期医療や地域連携に深くかかわっていくことのメッセージ性は小さくありません。左京区・北区という京都市東北部における地域中核的な脳卒中治療施設の整備や地域連携という活動がひとつのモデルケースと

なり、京都市さらに京都府の脳卒中医療が少しでもいい方向に向かうように、地域や社会から求められている応分の貢献をしていきたいと考えております。

SCUが開設されたことは、臨床研修や専門看護を推進する観点からも有意義です。日本人の死因第3位・罹患率第1位・寝たきりとなる原因疾患の第1位である脳卒中は国民病ともいえます。京大病院に求められるものは高度先進医療ではありませんが、国民病ともいえる脳卒中を診療する医師・看護師を育成できないようであれば、医育機関としてはやはり片手落ちです。これまで京大病院では脳卒中に対応できる今日的な体制がなく、脳卒中の診療・教育・研究については医療者個々の努力に頼ってきました。これからはtPAや血管内治療デバイスを用いた急性期脳梗塞の治療・くも膜下出血に対する外科治療・脳出血に対する神経内視鏡治療など臨床研修指定病院の研修内容として必須と思われる治療が積極的に行われるようになり、脳卒中専門医や脳神経血管内治療の専門医を多く育成し、近い将来には京都大学関連病院に彼らを派遣することができるようになると夢を膨らませております

地域中核病院として急性期集約的治療を行い、出来るだけ早期のリハビリテーションを促進し、回復期・維持期の施設と密接な地域連携をとりながら、脳卒中に対する連続性のある医療（シームレスケア）を積極的に推進して参りたいと存じます。何卒よろしくお願い申し上げます。



2. 東日本大震災支援のための医師の派遣者一覧

期間	派遣先	活動内容	氏名
10/15～ 10/22	宮城県(石巻赤十字病院)	産婦人科医療支援	鈴木彩子医師(産科婦人科・助教)
10/30～ 11/5	岩手県(岩手県立宮古病院)	全国医学部長病院長会議被災地支援	陣上直人医師(神経内科・医員)
11/6～ 11/12	岩手県(岩手県立宮古病院)	全国医学部長病院長会議被災地支援	北村彰浩医師(神経内科)
10/30～ 11/12	岩手県(岩手県立宮古病院)	全国医学部長病院長会議被災地支援	熊谷基之医師(心臓血管外科)
11/28～ 12/2	福島県会津若松市(会津保健所)	京大病院心のケアチーム派遣	山崎信幸医師(デイ・ケア診療部・院内講師)
12/5～ 12/8	福島県会津若松市(会津保健所)	京大病院心のケアチーム派遣	杉原玄一医師(精神科神経科・特定病院助教) 島澤明子医師(精神科神経科)
12/12～ 12/16	福島県会津若松市(会津保健所)	京大病院心のケアチーム派遣	高橋英彦医師(精神科神経科・准教授)
12/19～ 12/22	福島県会津若松市(会津保健所)	京大病院心のケアチーム派遣	大下顕医師(精神科神経科・助教) 勢島奏子医師(精神科神経科・医員)
1/12～ 1/15	福島県(福島第一原子力発電所)	福島第一原発「緊急医務室」への派遣	小池薫(救急部・教授)
2/19～ 2/22	福島県会津若松市(会津保健所)	京大病院心のケアチーム派遣	上田敬太医師(精神科神経科・助教) 川島啓嗣医師(精神科神経科・医員)
3/19～ 3/23	福島県会津若松市(会津保健所)	京大病院心のケアチーム派遣	山崎信幸医師(デイ・ケア診療部・院内講師)

(平成23年10月～平成24年3月)

3. 最先端医療シリーズ

LOX-1シグナルと関節リウマチ リウマチ性疾患制御学講座(整形外科) 准教授/伊藤 宣



関節リウマチは、日本で60万人以上の患者さんがおられる、common disease(一般的な疾患)です。その特徴は、慢性的に関節破壊が進み、歩く、手を使うなどの手足の機能が損なわれ、日常生活が徐々に不自由になっていくことです。その治療は長い間不毛の時代でしたが、内服薬のメソトレキセートの導入に続いて、リウマチで異常がみられるサイトカインやリンパ球の機能を抑制する薬剤(生物学的製剤)が導入されたことによりさらに改善され、多くの患者さんに福音をもたらしました。しかしこれらの新しい治療によっても十分な効果を上げているとは言い難く、またこれらの薬剤が無効な患者さんもおられます。そのため、病気の診断をより早くすること、病気の勢いを的確に判断して治療に役立てること、関節破壊をより効率的に抑制することが求められています。

これらの問題を解決するために、私たちは、レクチン様酸化LDL受容体-1(LOX-1)と呼ばれる因子とそのシグナルに注目しました。身体の中で炎症が起ると、低比重リポタンパク(LDL)と呼ばれるコレステロールの一種が酸化されます。この酸化されたLDLは、LOX-1を介して体内にシグナルを送り、さまざまな悪影響を及ぼすことが知られていました。私たちは、このシグナルが、関節における炎症が病気の原因である関節リウマチで働いているのではないかと考えたのです。

関節リウマチでは、関節内の「滑膜」と呼ばれる部分で炎症がおこり、さまざまな関節を壊す反応を起します。まず私たちは、関節リウマチの方の滑膜では、酸化したLDLとLOX-1が存在していることを確認しました。次に、LOX-1の一部である可溶性LOX-1(sLOX-1)が、関節リウマチ患者さんの血液内、関節内に存在していることを確認しました。このsLOX-1の濃度は、健常の方および変形性関節症の方と比べて、関節リウマチの方では高濃度であることがわかりまし

た。また驚くべきことに、病気の勢いが増すにつれて sLOX-1 の量は増加し、治療によって病気の勢いが取まると、sLOX-1 の量も減少することがわかりました。すなわち、sLOX-1 の血液中ないし関節液中の濃度を用いることで、関節リウマチの診断ができるかもしれませんし、さらに、治療の判断に重要な病気の勢いが的確にわかる可能性があります。

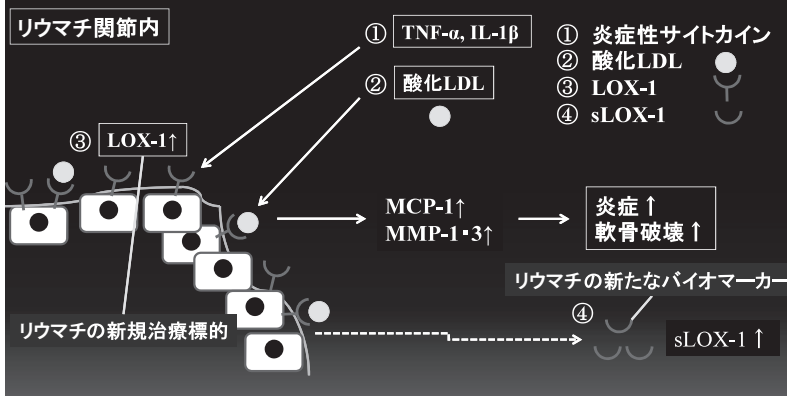
さらに私たちは、このシグナルを阻害する薬剤が、関節リウマチの治療に使えないか研究を進めました。まず、培養した滑膜細胞に酸化 LDL を投与すると、

関節軟骨を壊す酵素を導き出すことがわかりました。一方ここに LOX-1 を阻害する中和抗体と呼ばれるものを投与すると、それらの酵素の誘導は抑えられました。次に体内で同じような結果が得られるかどうか確認しました。まずマウスの膝関節に酸化 LDL を注射すると、それだけで関節破壊が起こることがわかりました。しかし LOX-1 を阻害する中和抗体を同時に投与すると、関節破壊はほとんど起こらなかったのです。したがって、関節リウマチの関節では、LOX-1 が働いて関節破壊を導いています。LOX-1 の中和抗体

を投与すると、関節破壊が抑制される可能性があります。新しい治療の一つとして、有望なものであると私たちは考えています。

以上のように、LOX-1 シグナルは、関節リウマチの診断、病気の勢いの判定、さらに治療において非常に有望なものです。しかし日常の診療において使えるようにするためには、これからのデータの蓄積、安全性の確認などの、時間と手間のかかる研究が継続的に必要です。それには患者さんのご協力なくしては達成できません。今後も患者さんからの篤志と貴重な検体を大切にしながら、臨床応用へ向けて研究を続けたいと考えています。

・ 関節リウマチの関節内では、酸化LDL/LOX-1が炎症及び軟骨破壊に引き起こし、その結果を反映しsLOX-1が増加する



4. 検査システムの変更について

本年1月4日から検査部の新検体検査システムが稼働しました。今回の更新整備は検査需要の増大と装置の老朽化に対応するものですが、緊急検査がいつでも電子カルテから依頼できる、外来患者さんの採血待ち時間や結果報告時間が把握できる、といった新しい機能が付加されて診療支援能力が向上しています。また、先進医療を支援するための様々な工夫がなされており、日々の診療から臨床研究等への幅広い貢献が期待されています。



検査部システム部門(新検体検査システム)

禁煙パトロールを実施しています

本院では、平成18年4月から敷地内全面禁煙を実施していますが、実施以降も、禁煙実施委員会の活動を継続しており、月1回、定期的に教職員による禁煙パトロールを行っています。パトロールでは、病院敷地内を巡回して喫煙者を見かければ注意し、吸い殻のポイ捨て状況等を確認しています。2月22日に実施したパトロールでは、駐車場脇の通路から多くの吸い殻が確認され、継続した課題となっています。今後とも敷地内全面禁煙にご理解、ご協力をお願いいたします。



禁煙パトロールの様子

5.医療安全管理室だより 第4回 採血室

◆医療安全管理室長／^{まつむら ゆみ}松村 由美

採血室では1日に何名の外来患者さんの採血をしているのか皆様ご存知でしょうか。八百数十名の患者さんが採血に来られています。その採血のほとんどが午前中の数時間に行われています。そのような中で、採血室の職員が最も気を使っていることは患者さんの血液を取り間違えないことです。ある患者さんの血液が、別の患者さんのデータとして処理されてしまうと、間違った解釈から間違った医療行為へとつながってしまいます。しかし、どんなに注意をしても、人間が間違いをおかすのは世の常ですから、人間だけに頼らずに、機械の力を借りて間違いを防ぐ仕組みを作っています。

患者さんにお渡しする呼出し受信機は強力な助っ人となります。採血受付では、名前を確認するとともに呼出し受信機を使って受付を行っています。呼出し受信機から読み取る情報を元に、採血管が機械によって準備されます。しかし、機械のことですから万一機械のトラブルで間違いが起こることも想定できます。そこで、患者の皆様にご名乗っていただくフルネームと機械の情報との両者が一致することを確認し、たとえ一方で間違っても他方で防ぐようにしています。

もう一点、採血室で皆様に呼びかけている点は、神経損傷への注意です。採血の際に皮膚の浅い部分の細い神経を針先で意図せず傷つけてしまうことはあり得ます。採血中に痛みを感じた場合には「痛い！」と伝えていただくと採血を中断します。ほとんどの場合には、自然に治癒しますので、痛みがあっても様子を見ていただくと治ります。しかし、ごく稀に強い痛みが持続することがあります。このような場合には、専門の医師の診察を受けていただきます。

患者の皆様安心して採血を受けていただけるように採血室では少しずつ改善を重ねています。



採血を行っているスタッフ

「第10回アトリウムホール映画上映会」を開催

「アトリウムホール映画上映会」が、3月8日に外来診療棟1階アトリウムホールで開催されました。この上映会は、入院患者さんを中心に夕食後のひとときを楽しく過ごしていただこうと企画しているもので、今回で10度目の開催となります。



上映会の様子

上映作品は、ディズニー&ピクサーのアニメーション映画「ファインディング・ニモ」(2003年)。ここはオーストラリアのコーラル・リーフ。七色に透き通った美しい海の中で生活していた“カクレクマノミ”のマーリンとコーラル夫婦は、突然襲われてしまい、沢山あった卵がたった一つになってしまう。その残された卵はニモと名付けられ、右ヒレが小さい以外は元気に成長したが、ある日、人間のダイバーにどこかにさらわれてしまう。マーリンは、物忘れが激しい魚・ドリリーと一緒にニモを探すため大海原へと旅立つー、という物語です。

上映会には、約100人の患者さんらが集まり、上映会は好評のうちに終了しました。

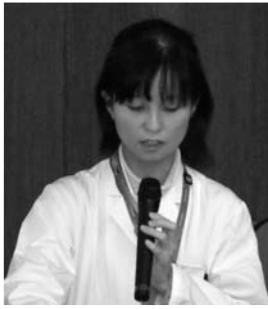
6.院内講演会の紹介

1月12日、院内感染対策講習会が開催されました。テーマは、「微生物学的検査の検体採取と保存について」で、講演者は本院感染制御部 助教の松島 晶先生です。講習会では、「良質な検体を得る努力」と「適切な保存方法」等について詳細に説明をされました。

当日は多くの職員が参加し、会場は満員となりました。



会場の様子

微生物学的検査の検体採取と保存について 感染制御部 助教／^{まつしま あき}松島 晶

微生物学的検査では、具合の悪い患者さんから採取した様々な検体(血液、痰、尿など)の中に、原因となる微生物がないかどうかを調べます。具体的には、顕微鏡で観察したり、培養(菌を育てること)をします。今回の講習会では

患者さんたちの病気の原因となっている菌を正確につきとめるためにはどのようなことに注意を払う必要があるか、を中心にお話しをしました。

検査室に届いた検体には、まず外観を見たり顕微鏡で観察したりして質の評価がなされます。質のよい検体とは、病原菌がいるところから直接採取されており、雑菌が混ざっていない検体です。反対に質のよくない検体とは病巣ではないところから採取されたり、皮膚や消化管などの雑菌が混入している検体です。例えば肺炎の患者さんの痰の場合、肺の奥から出せた良質の検体の外観は膿が多く、顕微鏡では多量の白血球と細菌が見つかります。質のよくない検体は唾液の成分が多く、顕微鏡で見ても口の中の細胞や種々雑多な雑菌しかみつきません。このような検体を培養しても雑菌が生えてくるばかりで、病原菌ではなく雑菌を標

的とした薬が治療に使われてしまう危険もあります。

とはいえ、微生物学的検査の検体には雑菌の混入の危険が常に存在します。特に喀痰や尿など「痛くない」方法で採取される検体は口の中や外陰部の雑菌の混入が避けられません。よってこれらの検体を採取する際は患者さんの協力(うがいをしてから深く大きな咳をして痰を出すなど)が不可欠です。採取後の検体は雑菌が増えてしまわないようになるべく早く検査室に送る、やむを得ず保存しておくときは基本的に冷蔵庫に保存するなどの注意が必要です。

雑菌混入の危険が低い方法で検体を採取することも重要です。血液や膿などは、留置されているチューブ類からではなく穿刺して採取する方が雑菌が入りにくくなります。患者さんには痛くてつらいのですが、検出された菌は病気の真犯人である可能性が高く、意義の高い検査です。近年、京大病院では穿刺採血による血液培養の検体が多く提出されるようになってきており、感染症の正確な診断への意識は年々高まっているといえます。

病原菌という犯人をつきとめて感染症の適切な治療を行うためには、患者さんと診療科の協力により質のよい検体が提出されることがとても大切です。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

7. 読者より

関西電力病院の紹介 関西電力病院 院長／^{せい の ゆたか}清野 裕

関西電力病院は、名称のように、関西電力の所有する病院です。多くの企業病院は企業やグループの財団あるいは健康保険組合が経営するのに対し、当院は企業の一部門として存在する数少ない病院です。電力10社のうち、3社

が病院を保有していますが、その中では最も大きく400床のベッドを有しています。もともと関西電力の福利厚生目的にスタートしましたが、現在は、一般に開放し、受診者のうち関西電力の社員(関連会社を含む)またその家族は20%に過ぎません。

現在病院の方向性を「がん」、「糖尿病など生活習慣病による血管障害の防止」、「生体の機能再生」、「救急医療」の4つに定め、診療科の新設や再編を行っています。救急集中治療・総合診療科も米国のER方式を採用し、救急車による搬入は年間3,000件を超えています。また緩和

医療科も大阪府では一早く立ち上げ、がん治療と連携させています。糖尿病も当院の大きな柱で年間入院患者数は昨年度東京女子医大に次いで全国2位と市中病院としては健闘しています。糖尿病の治療や臨床研究のみならず、患者教育やコメディカルの教育に新しい手法を導入し、大阪府下の病院や診療所と幅広い連携をしています。

さて、現在、当院(中之島)の敷地内に新病院(地上18階)を建築中で、本年12月には1期工事が完成し、全ての部門が新病院へ引っ越します。その後2期、3期と外来棟など増築工事を行います。新棟では、急性期リハビリ病棟も設ける予定です。

当院は、大阪の中心地である中之島に位置しており、繁華街が近く、またオフィス街でもあります。立地条件から研修医やコメディカルに人気が高いのも特徴で、特に前期研修医に大変人気があります。毎年京大、大阪市大、神戸大など一つの大学に偏らない合格者で構成されており、お互いに切磋琢磨して研修を行うことも研修医の技能向上につながるかと期待しています。

京大病院とは、京阪中之島線で神宮丸太町駅と結ばれ約50分と至近です。京大病院のご支援をいただき、医師、コメディカルも充実しつつありますが、昨今の事情で、自前で育成しなければならない場合もあります。

大阪における数少ない京大関連病院の1つとして誇りを持ち、頑張っていきたいと思っておりますので、宜しく願います。京大病院の皆様方の益々のご活躍を祈念しています。

8.トピックス

第5回京大病院iPS細胞・再生医学研究会を開催



開会挨拶を行う三嶋病院長

2月3日(金)に、京大病院 iPS 細胞・再生医学研究会を芝蘭会館にて開催しました。同研究会は、本院における iPS 細胞、ES 細胞及び体性幹細胞等を用いた再生医学研究の向上並びに成果の普及を図り、ひいては医療の発展に貢献することを目的として平成21年11月に発足したものです。第5回目となる今回の研究会では、学内外から110名余りの参加がありました。

研究会では、三嶋 理晃病院長の開会挨拶の後、中西 淳先生(武田薬品工業株式会社 医薬研究本部 生物研究所)より「ヒト iPS 細胞からインスリン産生細胞の分化誘導」



油谷先生による特別講演

について、妻木 範行先生(京都大学 iPS 細胞研究所 教授)より「軟骨細胞分化制御と細胞リプログラミング」について、妹尾 浩先生(京大病院 消化器内科 特定講師)より「腫瘍幹細胞特異的マーカー同定の試み」について、川口 義弥先生(京都大学 iPS 細胞研究所 教授)より「genetic lineage tracing を用いた臓器形成・維持機構の解析」について一般講演が行われました。

引き続き、油谷 浩幸先生(東京大学 先端科学技術研究センター 教授)より「エピゲノム解析の現状」について特別講演が行われました。

医療安全に関する講習会「知っておくと役に立つ 麻薬の安全・安心な取り扱い～マニュアル第2版のご紹介～」を開催

医療安全に関する講習会「知っておくと役に立つ 麻薬の安全・安心な取り扱い～マニュアル第2版のご紹介～」を開催

1月30日と2月2日に、「知っておくと役に立つ 麻薬の安全・安心な取り扱い～マニュアル第2版のご紹介～」と題した医療安全に関する講習会を開催しました。講師は、松村 由美医療安全管理室長、山田 和司副薬剤部長、辻田 麻衣子医療安全管理室専任看護師です。

講演会では、医師・薬剤師・看護師のそれぞれの立場から、麻薬事故対策について詳細な説明をされ、安全・安心な麻薬の取り扱いについて再確認がされました。

医療の現場に携わる多くの参加者たちは、熱心に講演を聴き、医療事故防止及び職員の意識改革を進めるうえで、大きな意味を持つ充実した講演となりました。



会場の様子

医療安全に関する講習会「本院における臨床工学技士の体制の現状と4月以降の対応について」を開催

医療安全管理活動の一環として、「本院における臨床工学技士の体制の現状と4月以降の対応について」と題した講習会が、2月9日に開催されました。講演者は、角山 正博医療器材部副部長です。

講習会では、まず、臨床工学技士(ME)の業務について説明がされ、現在のMEの配置状況や時間外業務に対する対応状況が話されました。続いて、4月以降の体制について説明がされ、配置予定数や平日夜間・休日の対応についてなどを解説されました。

講習会の最後には、質問や意見も交わされ充実した講習会となりました。



会場の様子

院内感染対策講習会「日常診療におけるHIV-1感染症」を開催



講演をされる高折先生

院内感染対策講習会「日常診療における HIV-1 感染症」が2月13日に開催されました。講演者は、血液・腫瘍内科長の高折 晃史先生です。高折先生からは、「①診断：HIV-1 感染症、AIDS の診断、②治療、③日常診療における注意－感染予防と針刺し後の対応を含めて、④疫学、⑤京大病院の現状」について、講演がなされました。講習会には、多数の職員が参加し、講習を熱心に聴き入っていました。

院内感染対策講習会「感染症の診療：京大病院における特定の広域抗菌薬使用方針について」を開催

院内感染対策講習会「感染症の診療：京大病院における特定の広域抗菌薬使用方針について」が2月21日に開催されました。講演者は感染制御部副部長の高倉 俊二先生と検査部助教の長尾 美紀先生です。

長尾先生からは「カルバペネムの適正使用について」と題した講演が行われました。続いて、高倉先生からは「京大病院における抗MRSA薬の使用方針」と題した講演が行われました。講演会では、広域抗菌薬の使用基準・使用方針について詳細に説明がされました。



会場の様子

接遇研修の開催について

1月11日（水）、全職員を対象とした「接遇研修」が開催されました。

患者サービス推進委員会委員長の秋山 智弥看護部長の挨拶のあと、株式会社ピーフォーシー代表取締役／人材育成コンサルタント 相部 博子講師から「接遇の誤解」と題して研修が行われました。会場である臨床講堂は立ち見の職員が出るほど満員となり、参加者は接遇の向上に向け真剣に研修を受けていました。



会場の様子

「胸骨圧迫・AED講習会」を開催

年間およそ5万人（年間交通事故死者数の10倍）が、心臓突然死で亡くなっています。

心臓突然死の多くは、「心室細動」と呼ばれる心臓の細かい“けいれん”が原因です。これを正常に戻すにはAEDによる電気ショックが欠かせません。そして心臓が正常に動くまでの間、全身に血液を循環させるポンプの代わりにするのが胸骨圧迫（心臓マッサージ）です。今回は看護部、初期診療・救急科、医療安全管理室、京大医学部の救急蘇生サークルメンバーの協力を得て、院内の事務職員を対象に講習会を開催しました。講習会では、「シー

ピーアール（心肺蘇生）トレーニング・ボックス（あっぱくん）とAEDを使いトレーニングをしたほか、胸骨圧迫の手技を評価するシミュ



会場の様子

レータ（あっぱくんプロ）を用いて手技の確認を行いました。7月のオープンホスピタルでは、一般市民の方を対象に開催しますので、是非ご参加ください。

平成23年度消防訓練を実施

平成23年度第1回消防訓練を平成23年12月27日（火）、第2回消防訓練を2月24日（金）に実施しました。第1回消防訓練では、平日昼間、震度6弱の地震発生により南病棟の建物の一部が損壊し、8階（眼科・麻酔科）で火災が発生したという想定で実施し、教職員33名が参加

しました。第2回消防訓練では、平日夜間（午前2時頃）に西病棟で火災が発生したという想定で実施し、教職員26名が参加しました。

また、第1回・第2回訓練において、左京消防署の指導のもと消火器の使用訓練を行ったほか、今年度からの

取り組みとして起震車による地震体験を行いました。



「きさらぎコンサート2012」を開催

2月20日、外来診療棟1階アトリウムホールにおいて「きさらぎコンサート2012」を開催しました。

このコンサートは、入院中の患者さんや外来を受診した患者さんに少しでも楽しんでもらおうと、ボランティアの出演者を招いて平成7年から毎年開催されているものです。

今年度のゲストはピアニストの井前 典子さんとヴァイオリン奏者の井前 慶子さんです。ピアノとヴァイオリンによるコンサートは、「ザ・エンターテイナー」から始まり、続く「エルガー：愛の挨拶」では、しっとりとした華やかな演奏が披露されました。井上陽水の「少年時代」の演奏

では、会場は懐かしい雰囲気に包まれていました。全12曲の最後には「ふるさと」が演奏され、参加者は美しい“しらべ”とともに合唱し、コンサートは終了となりました。

吹き抜けのアトリウムホールに設置されたコンサート会場には、約300人の患者さんらが集まり、感動とともにこころ癒されるひとときとなりました。



コンサート会場

9. 名物職員紹介

◆放射線診断科／^{かたおか まさこ}片岡 正子 特定病院助教



放射線診断科の片岡 正子特定病院助教をご紹介します。

片岡先生は5年間、イギリス、ケンブリッジ大学で乳腺、産科・婦人科の画像診断の研究を続けてこられました。2011年4月に放射線診断科に帰学されました。当科ではご専門の乳腺、

産科・婦人科のMRI画像の臨床研究、またCT、MRIの日常診療、研修医、大学院生の研究指導などを精力的にされています。たいへんアクティブな先生で、臨床・研究業務以外に、母親、主婦の一人三役を見事にこなされており、頭が下がります。普段は、放射線部画像診断室あるいはMRI画像診断室におられますので、気軽にお声をおかけ下さい。紹介者／放射線部 准教授 柴田 登志也

◆がんセンター／^{くわばら ひろみ}桑原 宏美 看護師長



積貞棟1・2階の桑原 宏美師長をご紹介します。積貞棟1階は、化学療法部・がん診療部を含む外来部門で、2階は病棟（放射線治療科・集学的がん診療病棟など）です。様々な科から共通病床への入室依頼もあり、いつもかなり多くの部署や部門との対応をしておられます。そんな中でも、桑原師長は必ず現場スタッフの私たちの思いを大事にしてくれています。昨年末に化学療法部に外来部門で初のバーコー

ドリーダー導入という動きがあり、様々な問題が出てきましたが、桑原師長はいつもスタッフと同じ目線に立ち、現場の声や意見を大切にしてくださいました。おかげで円滑な導入ができました。

若々しい師長さんですが、実は社会人を含む3人の子供の母親でもあり、テニスでは全国大会に出場した経歴もある、パワフルな面もお持ちです。写真のように癒し系の笑顔で積貞棟の女将的存在!の桑原師長。普段は積2詰所におられます。

看護部（積貞棟1階・2階）／副看護師長 浜辺・福田

10. 各科・部からのメッセージ

採血プレパレーション –くまたくんの採血がんばるもの巻き–

小児科外来では、くまのぬいぐるみを主人公にしたパンフレットを用いて採血プレパレーションに取り組んでいます。プレパレーションとは、子どもが病気や入院によって引き起こされる様々な心理的混乱に対し準備や配慮をすることで、その悪影響を和らげると共に子どもや親の対処能力を引き出すよう環境を整えること。パンフレットを用いて理解しやすいよう視覚的に説明し家族付

添いのもと行う採血では、押さえつける必要はなく、2歳児でも座って採血を受けることができますようになります。

(文責：小児科外来)



11. 栄誉

平成23年度医学教育等関係業務功労者表彰



平成23年度医学教育等関係業務功労者表彰式が11月24日に行われ、本院から高橋涼子副看護師長が文部科学大臣表彰を受けられました。高橋副看護師長は、35年の永きにわたり、皮膚科・形成外科での感覚器の看護をはじめ、

助産業務、精神科看護、泌尿器科外来看護に携わり、豊かな経験と専門的知識を持って、患者中心の看護の構築に尽力されてきました。

また、後輩に対する指導も丁寧で面倒見よく、自らも常に率先して看護技術の修得、開発に努力し、永年にわたる看護の経験を活かして、困難な業務を遂行すると共に医学教育に協力し、医療の発展に貢献されました。

ブリストル大学副学長の訪問について

1月12日(木)、ブリストル大学副学長のProf. Orpen氏が本学の研究所等を訪問され、1月13日(金)には三嶋病院長を表敬訪問されました。その後、探索医療センターにおいて共同研究やワークショップの打合せを行い、積貞棟外来化学療法部、8F特別室の見学をされました。



見学の様子

今後の予定 3月6日現在

＜院内職員向け＞	4月2日(月) 8:00～	研修医・医員オリエンテーション(臨床第一講堂)
	4月3日(火) 8:15～	研修医・医員オリエンテーション(臨床第二講堂、緊急検査室ほか)
	4月4日(水) 9:00～	研修医・医員オリエンテーション(緊急検査室、研修センター)
＜患者さん向け＞	6月18日(月)	京都大学創立記念日(※外来診療は休診となります。)



ご寄附のお願い

京都大学医学部附属病院では、高度医療の充実発展、新医療の創生及び医学教育・研究を推進するため、寄附金を受け入れております。詳細は、京大病院ホームページ【URL】<http://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp>をご覧ください。事務部経理・調達課産学経理掛(TEL.075-751-3059)まで。